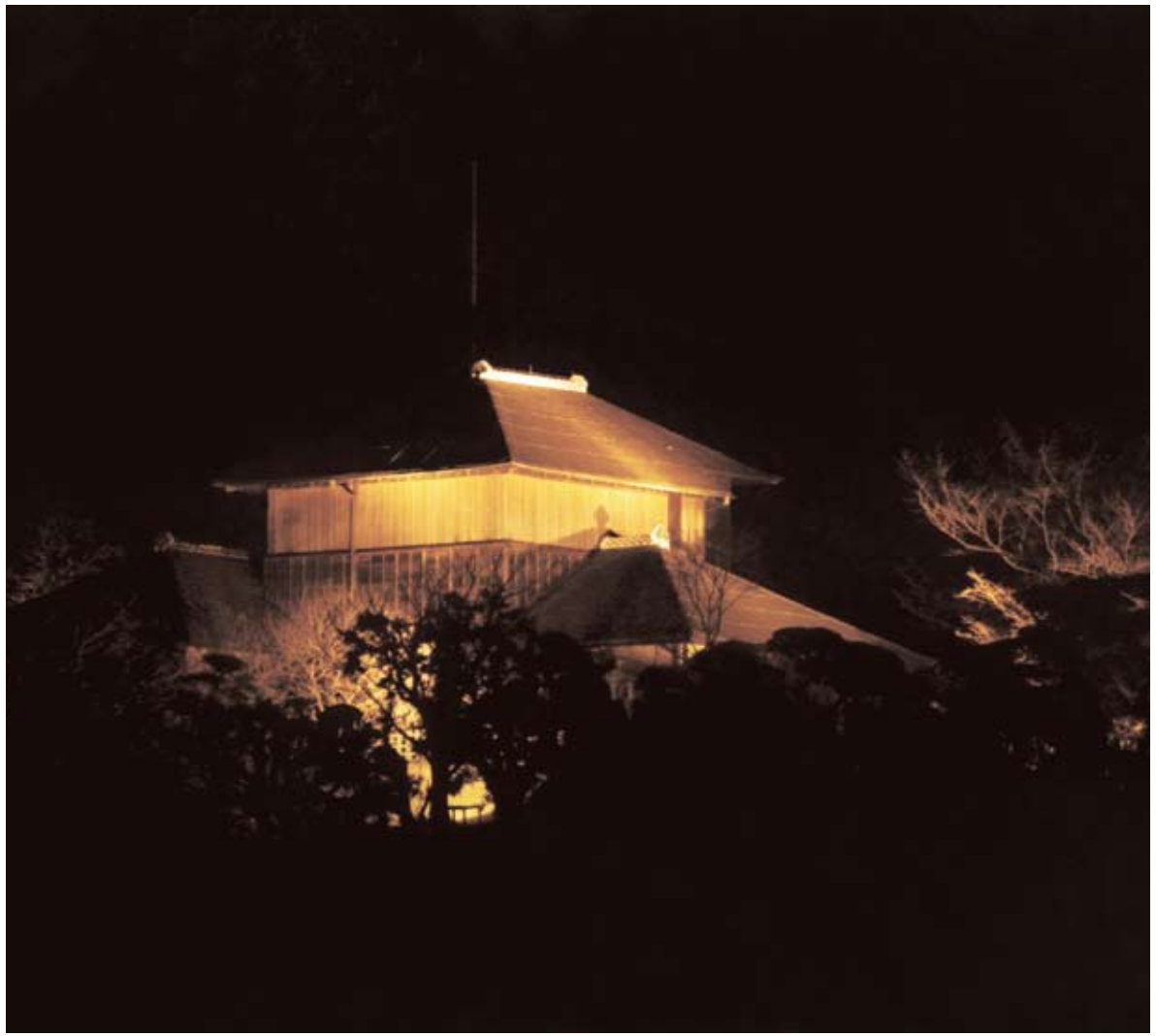


🌸 創立110周年記念事業

「郷土いいところ再発見」



水戸商工会議所

創立110周年記念事業
「郷土いいところ再発見」

《水戸歴史文化検定参考資料編》
構 成

水戸の始まりの史跡と信仰	1
史跡（神社、仏閣、遺跡、墓所）.....	3
光圀公・水戸藩	17
自然・公園・文化	18
展示・見学施設・文化施設	26
郷土料理	28
特産品・地場産業等	29
水戸のまつり・地域の行事	33

※ 施設や観光・イベント等一部最新の情報に修正してあります。

○ 水戸の始まりの史跡と信仰

◆ 水戸の始まり

今からおよそ千五百年前、大和朝廷から国家統一のため東国に派遣されてきたのが、建借間命たけかきまのみことでした。命は軍船を率いて霞ヶ浦に入り、鹿島・行方地方、さらに那珂川流域一帯を切り開いたので、朝廷から那賀(仲)国造に任命されました。那賀国は、当初いまの水戸市飯富付近を根拠としたとみられ、これが水戸の始まりとなりました。

飯富には、この地方で最も古いとされる安戸星古墳あんどほしこふみがあります(『常陸安戸星古墳』水戸市教育委員会)。残念なことに、発掘調査(一九八一年)ののち整地され、いまは駐車場になっています。

また飯富には、水戸地方で最も古い神社の一つ大井神社があります。祭神は最初に水戸地方を治めた建借馬(間)



命であり、平安時代の『延喜式』に明記される古社です。

那賀国造について『古事記』

には、神武天皇の第一皇子を祖先とする九州の意富臣・火君・大分君・阿蘇君や道奥の石城国造と同族であると記されています。

『水戸市史 上巻』も「仲国造の初

祖建借間命は、火の国造家から別れた意富臣の一族であり、火の国を中心根拠をもち、東国に進出したという説が有力である」と記しています。

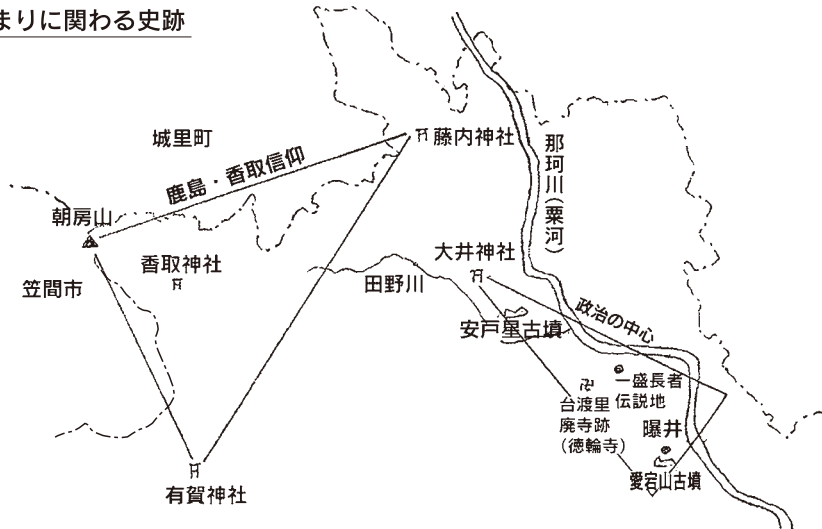
「火の国」とは古代の北九州地方の名称で、のち肥前・肥後に分けられました。水戸の始まりと関連深いのは、肥前、特に今の佐賀県地方です。堀原地区で平成二年から毎年「火の国まつり」を行っているのは、水戸の始まりが九州火の国と関連深いことによります。

愛宕町にある愛宕山古墳は、全長一三七メートルにも及ぶ大古墳(国指定)で、那賀国造・建借間命の墳墓と伝承されています。その近くにある曝井は、『万葉集』に「那賀郡の曝井の歌」として、次の歌が載っています。

三粟の 那賀に向かへる 曝井の 絶えず通はむ
ここに妻もが



水戸の始まりに関わる史跡



作者の高橋虫麻呂は、『常陸国風土記』の編さんにもたずさわったと推定される万葉歌人です。その『常陸国風土記』には「泉に縁りて居る村落の婦女、夏の月に集ひて布を洗ひ、曝し乾せり」と記されています。